



本紙のカラー版をホームページ「本郷ふじやま公園」にてご覧いただけます

楽しもう日本の夏！ ふじやまの夏花壇

7月も半ばを過ぎ、梅雨空のどんよりした雲の合間から顔を覗かせる太陽の光が、まぶしいばかりに輝くようになってきました。湿度が高く私たちには鬱陶しく感じるこの季節ですが、長屋門に入って右手にある花壇では、夏の主役の花たちが、雨と光を成長の糧に、夏を迎える準備を着々と進めています。

昭和世代にとって、夏休みの宿題の定番といえば朝顔の観察日記でした。花壇中央に三角の形に植えられた朝顔はつるを力強く伸ばし、花芽も目立つようになりました。“早く大きくなあれ！”と毎日欠かさず水遣りをしていた子どもの頃を懐かしく思い出させてくれます。

朝顔のそばには、昨年秋まで大輪の真っ赤な花が咲き続け、圧倒的



な存在感を示して来場者から好評だった鶏頭が植えられています。また、花壇の最前列では、ほおずきが青い袋を付け始めています。田んぼの畦に咲いている赤いほおずきを採って来ては、皮が破れないようにゆっくりと揉んで中の実を出して、くちゅくちゅと鳴らした思い出をもっている方も多いことと思います。

花壇には、花にまつわる俳句や短歌の短冊が立てかけられています。“朝顔につるべとられてもらい水”、“鶏頭の十四、五本もありぬべし”と詠んだ先人に倣って一句ひねってみるのもまた、ふじやまの夏の楽しみ方ではないでしょうか。



今日は貴重な梅雨の晴間であり、朝から空が晴れ上がって気持ちがいい。古民家の長屋門を出て、小さな畑のそばを歩いて行くと、まもなく4つの碑が並んだ山頂に着く。この碑は昔の富士講のものだと古民家のそばで作業をしていた人が教えてくれた。そこを後にして横浜・鎌倉方面と書かれた案内に従って下って行くと、まっすぐに伸びた背の高い竹林の中に入る。

そこはそよ風のやさしい音と、時々ひびきわたる鳥の鳴き声以外には物音の聞こえない静けさの中である。そして竹林の高い枝の間からは明るい木漏れ日がさんさんと私に降り注いできて、何とも言えない安らかさの中で時間を忘れてしまうのである。

梅雨のさなかのこの林の中で、自然とのよい交わりが与えられたひとときであった。





今年も梅豊作



6月18日、湿度90パーセント、気温27度という高温多湿の悪条件のなか、毎年恒例となっている梅もぎが行われました。梅は、竹の先に取り付けられた金具に引っ掛けられ次々と落とされましたが、時には下で集めている人の頭を直撃することも。「痛っ！もっと優しくやってよ。」という悲鳴も聞こえていました。この日の収穫は60キロ。梅干にするため翌19日に選別され漬け込みが終わり、古民家の土間で静かに土用干しの日を待っています。



旧小岩井家住宅の資料展と見学会が開かれました

6月上旬から7月上旬にかけて横浜市歴史博物館収蔵資料展「相模国鎌倉郡鍛冶ヶ谷村と小岩井家」が開かれました。特設展示会場では小岩井家に残っていた検地帳、村絵図、助郷役の実施状況、ペリー来航時の村の対応、地域の寺社との関わりなど示す約150点の文書類、更には民家では珍しい法華経を石に記した経石が目を引きました。研究講座は定員50名に対し70名以上の熱心な参加者があり会場を講堂に変更するなど盛況でした。

6月20日には協賛企画の古民家見学会が行われ35名以上の参加がありました。長屋門、式台、檜床など苗字帯刀を許された格式ある名主屋敷の雰囲気を感じたり、異国船マンハッタン号の絵図などの説明を聞きました。なお、旧小岩井家住宅は毎月第一水曜日と年末年始以外は開館しています。収集した古民具などと共にご覧ください。



古民家 Q&A 富士講碑文



Q：ふじやま山頂の富士講碑の碑文 小御嶽石尊大権現の意味は何ですか

A：本郷ふじやま公園のふじやま頂上に富士講の碑が4基立っています。その中で左側の石碑に「小御嶽石尊大権現」の碑文が彫られています。「コミタケセキソングンゲン」と読みます。この石碑は里山部会の皆さんが平成18年7月富士塚付近の草刈りを行っている際、頂上から少し北側へ下がった斜面に横たわっているところを発見されました(ふじやまだより第43号)。小御嶽神社は富士山五合目に祀られており、石尊大権現は大山の阿夫利神社を指します。富士山登拝の際、小御嶽神社と大山をもお参りしたとされています。この石碑はふじやまの富士塚のこれらの形式を整えていること、関東大震災で富士塚が崩れ、この石碑が倒れたことの証となっています。



ふじやま公園の植物

ヤブカンゾウ ユリ科

中国原産。本州以南の平地や丘陵地に群生する。7月初め、鮮やかなオレンジ色の花が咲き、夏に似合う。花は雄しべが花びらのように変化して八重に咲き根が増えて繁殖する。ヤブカンゾウ、ノカンゾウなど古名で“忘れ草”(ワスレグサ)とも呼ばれていた。

ワスレグサは万葉集にもみられる。大伴旅人が故郷を忘れがたく「萱草(わすれぐさ)わが紐に付く香具山の故(ふ)りにし里を忘れむがため」と詠んでいる。若芽や花は食用、根は漢方となり利尿や不眠などに効く。



『いろり辺雑記』から(原文のまま)

昔は、今とちがって大変なくらしだということがわかってたけになりました。でも、それなりに、たのしいこともあるのかなとも思います。



開園10周年記念事業プロジェクト(略称10P)ニュース

10周年プロジェクトは、毎月15日を定例会として、7分科会の情報を共有させながら順調に進行しています。記念誌の装丁、内容、公園の行事や四季の風景などからみたあゆみの作成、古民家の表示となる標識の材料・大きさなど具体的な検討を進めています。公園のシンボルマークについては、7月20日から9月15日を期限として市内在住・在勤・在学の皆さんからの公募要領が決まりました。優秀作品1点は、今後、ふじやま公園の情報誌やパンフレットほか出版物等に使用されることとなります。また、10周年を記念した能管コンサート、古文書講座、落語会の計画も固まりつつあります。

なお、シンボルマーク応募要領については、公園事務所窓口のほかホームページでもご案内しています。皆さんの参加・協力をお待ちしています。



平成24年8月ボランティア活動予定

部会・事項	日程	部会・事項	日程
事務局会議	3日(金)	古民家歴史部会 部会	12日(日)
農芸部会 部会	20日(月)	古文書解読勉強会	5日(日) 26日(日)
作業	月曜日 木曜日	歴史探訪	2日(木)
里山部会 作業	11日(土) 18日(土) 26日(日)	囲炉裏守 囲炉裏焚き	当分の間 休みます
工作棟部会 部会	29日(水)	クリーンアップ	7日(火) 21日(火)
子ども工作準備	適時	ふじやまだより編集会議	4日(土)
ホームページ制作打合せ	7月28日(土)	印刷	11日(土)

楽しい教室のお知らせ

奮ってご参加ください。お待ちしております。

教室名	日 時	内 容	参加費	応募期限
作って遊ぼう～ 子供工作の日	8月19日(日)10時～12時 13時～15時	ネコかくれんぼ	無料 当日受付	10時～11時 13時～14時 先着順15名
寺子屋 Part-	8月23日(木)13時～ 15時30分	横浜の歴史抄録 生い立ちと農業そして横浜の 橋(都市の遺産)	無料	8月15日(水) 15名
木版画教室 (全4回)	9月1日(土)13時～16時 10月6日(土) 同上 11月3日(土) 同上 12月1日(土) 同上	木版画の年賀状を作ってみ ませんか	500円	8月25日(土) 12名
篆刻教室 (全3回)	9月2日(日)13時～15時 10月7日(日) 同上 11月4日(日) 同上	初心者でも3回参加すると作 品を仕上げられます	1,000円	8月25日(土) 12名
植物画教室 (全4回)	9月3日(月)13時～16時 10月1日(月) 同上 11月5日(月) 同上 12月3日(月) 同上	生涯楽しめる趣味を作りませ んか	無料	8月25日(土) 12名
七宝	9月14日(金)13時～15時	窯変色の釉薬を使ってプロ ーチを作ります	500円	8月29日(水) 12名
里山のそば打 ち塾	9月22日(土)10時～12時	初心者でも美味しいそばがう てます 試食と持ち帰りができ ます	800円	9月10日(月) 6名

(1)応募要領：往復はがきに、教室名、氏名(ふりがな)、郵便番号、住所、電話番号を書いて
応募期限までに本郷ふじやま公園へ

(2)応募者多数のときは抽選 (3)持参品：返信はがきで連絡します。

・・・お知らせ・・・

第3回能管コンサート 幽玄の世界「平家物語」へのお誘い

里山の森と江戸時代の古民家が織りなす原風景の中での催しです

日時：10月21日(日)18時～19時30分 場所：主屋

演者：金剛流能楽師 熊谷真知子 他 能笛奏者 根岸啓子 他

観賞ご希望の方は9月28日(金)までに往復はがき1枚にお一人の住所、氏名(ふりがな)
電話番号、能管コンサートと書いてお申し込みください(100名限定 無料)



6月ふじやま公園来園者数 1,200名 , 24年度累計 6,733名

・開館時間：9時～17時
・入館料：無料
・休館日：8月1日(水)
・クリーンアップ：8月7日(火) 8月21日(火) 10時～11時

ふじやま公園運営委員会

〒247-0009 栄区鍛冶ヶ谷1-20 TEL：896-0590 FAX：896-0593